



救護の意識や責任感も学ぶ

実際の救護の現場にふれ

広島国際大学

広島国際大学は、医療・福祉系の学部が充実している特性を活かしたボランティア活動が盛んです。今回は「防災研究会」を紹介。救急救命士を目指す大学での学びを活かした活動を行っています。

実際の活動の中で日頃の学びが深化する

防災研究会

救急救命士になるには、知識だけでなく高い技術も必要です。こうした中、大学での学び以外にも実際の救護現場で学びたいという声から発足した「防災研究会」。水害など、当時の防災意識の高まりも背景にありました。学生トライアスロンの大会では、熱中症の症状がある選手の処置や飲水・冷却のサポート、体調の聞き取りなどを行い、酒まつりでは、救護所チームと巡回チームに分かれ、体調が悪そうな人への声かけや急性アルコール中毒の方のケアなどを看護師とチームになって行っています。3年生になると学外での実習が始まりますが、1・2年生で実際の処置に参加できることは大きな経験となり、症状も状況も性格も異なる多くの人と学生のうちに接することが、救護の意識や責任感を育むきっかけにもなっています。



▼因島で開催された西日本学生トライアスロン選手権では、防災研究会が主導となって他学科の学生にも声をかけ、多くの学生がボランティアに参加しました。



活動を始めた頃は知識もありませんでしたが、先輩たちの活動を横で見て、次第にそれを自分の学習してきたこととリンクさせられるようになりました。救護所に来られる方は健康な状態ではありませんが、その中でコミュニケーションを取ることで、方言のニュアンスを理解すること、側から見て体調が悪そうな方はチームとして情報を共有しておくことなど、今後、実際の救急救命の現場でも役立つ経験を積んでいるのはありがたいです。また、地域の方と関わる中で、顔を覚えてもらい声をかけていただけるのもやりがいになります。



広島国際大学 保健医療学部
豊川 優弥 部長



◀災害の現場などで、いかに適切な判断や手当てがやれるかを子どもたちが競う「こどもメディカルラリー」にも演者として参加。現役の消防隊員や医師、看護師なども参加するため、普段どのように処置をしているかを見聞きできるのも学生にとって大きなメリットです。

DATA

人数: 18名
Instagram:
@hirokoku_bousai

防災研究会
Instagram



保健医療学部
救急救命学科
Instagram

